

## はじめに



スポーツは、私たちの「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すとともに、人々に大きな感動や活力を与え、人生をより豊かに充実したものにしているチカラを持っています。また、スポーツを通じた人々の交流は、希薄化しつつある地域における人間関係の醸成にも大きな役割を果たしていくことが期待されます。

令和6(2024)年に佐賀で開催された、SAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会では、大会に向けて努力を積み重ねてきた選手だけでなく、それを支える人、みる人、すべての人が一体となった盛り上がりを見せ、多くの方が「スポーツのチカラ」を実感する大会となりました。この大会で生まれたエネルギーや好循環を今後のまちづくりにつなげていくことが重要です。

このようにスポーツの機運が高まりをみせる中、本市では、市民が「する・みる・ささえるのさまざまな関わり方でスポーツを楽しんでいる」姿をスポーツ推進のめざす将来像とする「第3次佐賀市スポーツ推進計画」を策定しました。

この計画に基づいて、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、市民一人ひとりが自分にあった形でスポーツに関わることができる環境づくりを推進することによって、スポーツを通じた地域住民の交流や、地域共生社会、誰もが心豊かに暮らせるまちの実現へとつながっていくことを期待しています。

また、プロスポーツチームが身近にある強みを活かして、スポーツを通して市民が一体感や幸福感を感じたり、ふるさとへの愛着や誇り、夢を持つことができるような取組も進めていきます。

今後、スポーツ推進のために、行政、関係団体のみならず、学校、企業、そして市民の皆さまと連携・協働しながら、今まで以上に様々な施策に取り組んでまいります。

本計画の策定にあたりご審議いただきました佐賀市スポーツ推進審議会の委員の皆さま、「佐賀市民のスポーツに対する意識と活動の実態調査」にご協力いただきました皆さまをはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

令和7年3月

佐賀市長 坂井 英 隆

# 目 次

<b>第1章 スポーツ推進計画策定にあたって</b>	
1 計画策定の趣旨	1
◎ スポーツの価値	1
2 計画の位置付け	2
3 計画の期間	2
4 スポーツの定義	2
<b>第2章 スポーツ推進施策の概要</b>	
1 スポーツを取り巻く本市の現状と課題	3
2 スポーツ推進の方向性とめざす姿	4
3 目標達成のための成果指標	4
4 スポーツ推進の基本方針と施策	5
(1)「する」スポーツの推進	
(2)「みる」スポーツの推進	
(3)「ささえる」スポーツの推進	
5 スポーツ推進施策の体系図	6
<b>第3章 スポーツ推進施策の内容</b>	
1 「する」スポーツの推進	7
(1) 多様な形の「する」スポーツの推進	
(2) 利用者のニーズに対応できるような環境整備	
(3) レガシーの活用	
(4) 「する」スポーツの情報発信	
(5) 「する」スポーツによる地域振興	
(6) 相乗効果による「する」スポーツの推進	
2 「みる」スポーツの推進	15
(1) 「みる」スポーツの機会創出	
(2) 観戦者のニーズに対応できるような環境整備	
(3) 「みる」スポーツの情報発信	
(4) 「みる」スポーツによる地域振興	
(5) 相乗効果による「みる」スポーツの推進	
3 「ささえる」スポーツの推進	19
(1) スポーツを「ささえる」人材の確保	
(2) 「ささえる」スポーツの情報発信	
(3) 「ささえる」スポーツによる地域振興	
(4) 相乗効果による「ささえる」スポーツの推進	
<b>資料編</b>	24

# 第1章 スポーツ推進計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

本市は、平成21(2009)年度に「佐賀市スポーツ振興基本計画」、平成26(2014)年度に「(第1次)佐賀市スポーツ推進計画」、平成31(2019)年度に「第2次佐賀市スポーツ推進計画(以下、「前計画」)」を策定し、“市民誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている～スポーツで「私」が輝く!「地域」が輝く!～”を目標としたスポーツ推進を行ってきました。

一方、国では、令和4(2022)年に「第3期スポーツ基本計画」が発表され、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京オリ・パラ」)のレガシーの承継・発展に加え、スポーツを通じた健康寿命の延伸や地域社会の活性化とライフステージに応じたスポーツ参加機会の拡充が重視されています。また、障がい者スポーツの推進、女性や高齢者の参加促進、国際競技力の向上に焦点を当て、さらには、学校や地域、職場でのスポーツ環境の整備や、地域間・国際間でのスポーツ交流を推進し、持続可能な社会の構築を目指すことが示されています。

本計画は、前計画の成果と課題を整理し、“スポーツの価値”に着目し、令和6(2024)年に本県で開催された国民スポーツ大会(以下、「国スポ」)及び全国障害者スポーツ大会(以下、「全障スポ」)のレガシーの承継・発展と上述した国の計画及び本県のスポーツ施策・取組を踏まえ、今後5年間におけるスポーツ推進の基本的方向性として策定するものです。

### ◎ スポーツの価値

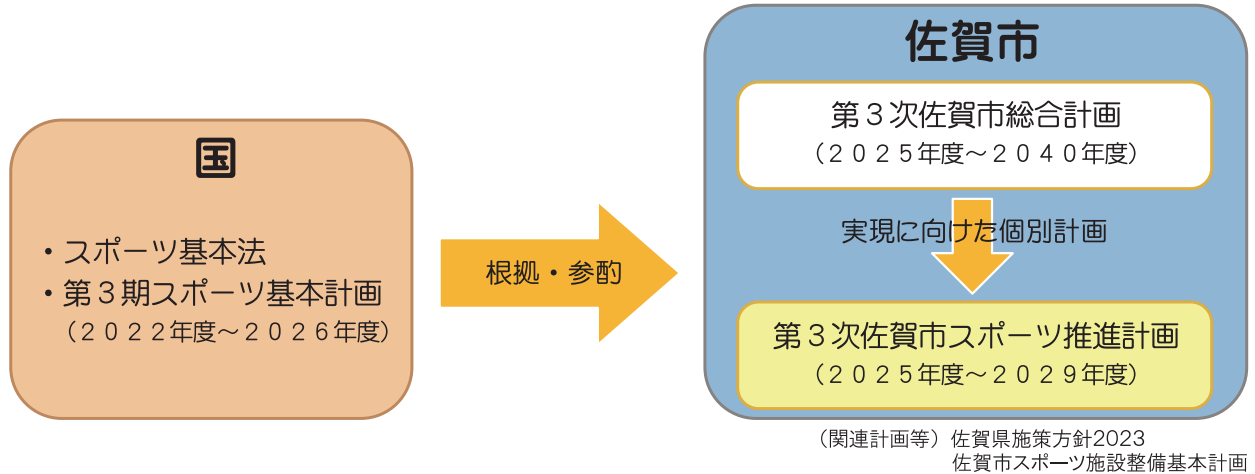
スポーツには、自発的なスポーツとの関わり方を通して得られる楽しさや喜びなどの「スポーツそのものが有する価値」と、スポーツを通じた地域振興やコミュニティ形成、健康増進社会の実現、経済発展、国際理解の促進など「スポーツが社会活動等に寄与する価値」があります。

本計画では、スポーツを広く捉え、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、多様な主体における「する」「みる」「ささえる」といった様々なスポーツ機会の質的向上と、プロスポーツや大規模スポーツイベント等を活用した経済的効果、市民のウェルビーイングの向上とシビックプライドの醸成などの社会的効果を促進していくこととします。



## 2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法に基づき、国の「第3期スポーツ基本計画」を参酌しながら、「第3次佐賀市総合計画」が掲げる2040年の将来像『佐賀らしさでみんなが上を向くまち』の実現に向け、本市の特色と実情に即したスポーツ推進のあり方を総合的に示したものです。なお、この計画は、スポーツ基本法第10条に規定する「地方スポーツ推進計画」として位置付けるものです。



## 3 計画の期間

令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。また、本計画に基づく施策の実績、成果や課題等を、毎年度、佐賀市スポーツ推進審議会にて報告を行い、進捗状況を把握・評価しながら、必要に応じて計画の見直しを行います。

	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	～	(年度) 2040
第3次総合計画	[Blue arrow spanning from 2025 to 2040]									
第3次スポーツ推進計画	[Yellow arrow spanning from 2025 to 2029]									
スポーツ施設整備基本計画	2018～									
【国】第3期スポーツ基本計画	2022～									

## 4 スポーツの定義

スポーツという言葉は、「気晴らしや楽しみ」といった要素を指すラテン語とされ、国の第3期スポーツ基本計画でも、スポーツには、競技スポーツに加え、散歩やダンス・健康体操、ハイキング・サイクリング、野外活動なども含まれ、文化としての身体活動を意味する広い概念であると示されています。

これらを踏まえ、本計画では、各種球技や陸上競技、水泳などのいわゆる競技スポーツや柔道、剣道などの武道に加え、レクリエーションやウォーキングなどの健康づくりのための運動、サイクリングなどアクティビティとして楽しんでいるスポーツ、アーバンスポーツなども計画の対象と捉え、「する」だけでなく、「みる」「ささえる」を含めた3つの視点をもとにスポーツを推進していきます。

## 第2章 スポーツ推進施策の概要

### 1 スポーツを取り巻く本市の現状と課題

本市では、前計画期間において、子どものスポーツ推進、ビジネスパーソン・女性のスポーツ推進、高齢者のスポーツ推進、障がい者のスポーツ推進、地域のスポーツ活動の推進により、市民のライフステージに応じた健康・体力づくりを進めるため、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツができる環境づくりを推進し、スポーツ実施者数の増加に向けて取り組んできました。

また、国スポ・全障スポに対応した施設整備として、富士しゃくなげ湖水上競技場の施設整備を行い、国スポ・全障スポ大会開催後もスポーツ合宿の誘致などを推進しています。

このように、「市民誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができ、いきいきと暮らしている」を目指す姿として実施してきた様々な取組により、「日常的に運動・スポーツをしている市民の割合（スポーツ実施率）」は増加傾向にあるものの、目標には達していない状況です。一方で、国スポ・全障スポの開催を機に、大会を支えるボランティアとしての参加や競技を観戦・応援するなど、「する」だけでなく「みる」や「ささえる」を通してスポーツに触れる機会が増えています。

これらの取組結果を踏まえ、本市のスポーツを取り巻く現状と課題を次のとおりとします。

現 状	課 題
スポーツを取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツに参画する（する・みる・ささえる）人や、スポーツに関する活動を支える担い手不足</li><li>・部活動の地域展開による受け皿づくり</li></ul>
スポーツに触れる機会の不足	<ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツの魅力を伝える情報発信の不足</li><li>・トップレベルの選手等を見る機会や交流の場の不足</li><li>・他分野、他団体との連携</li></ul>
多種多様なスポーツへの関心の高まり	<ul style="list-style-type: none"><li>・アーバンスポーツなど新しいスポーツに対する理解の不足</li><li>・練習する場所、施設の不足</li></ul>
プロスポーツチームへの関心の高まり	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロスポーツチームの活用</li></ul>
SAGA2024 国スポ・全障スポ大会	<ul style="list-style-type: none"><li>・大会のレガシー活用</li></ul>

## 2 スポーツ推進の方向性とめざす姿

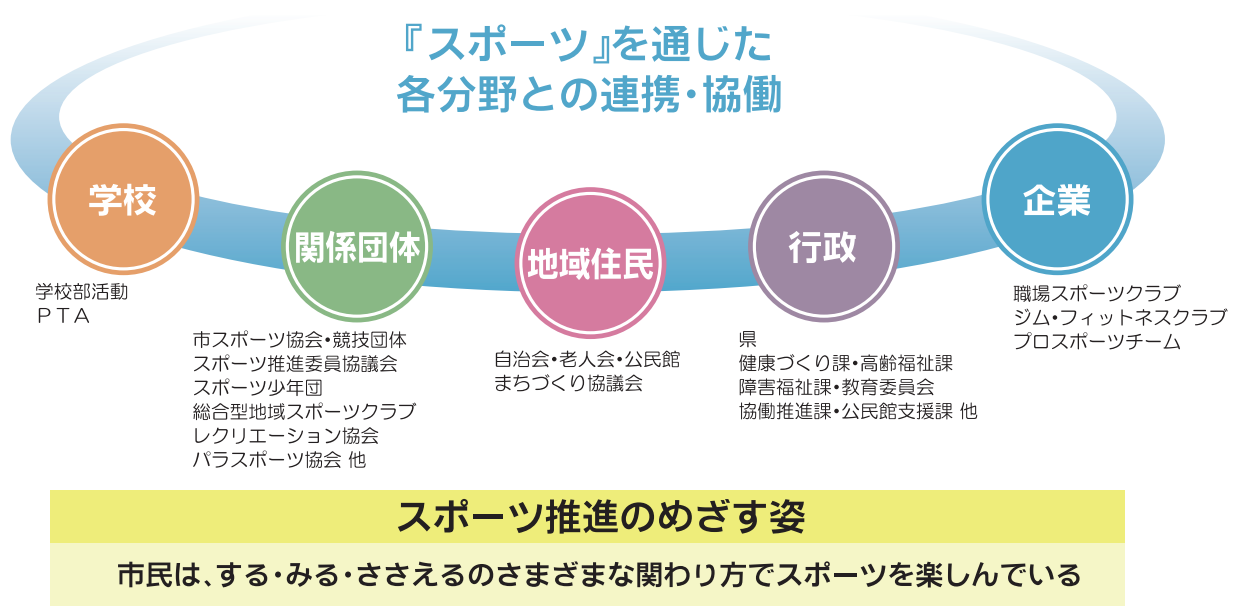
本市の現状と課題等を踏まえ、市民のライフステージに応じた健康・体力づくりを進めるため、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも「する」「みる」「ささえる」スポーツに関わることのできる環境づくりに向けたスポーツ推進の2つの方向性を示します。

### 1) 「する」「みる」「ささえる」スポーツのさらなる推進（スポーツの推進）

一人ひとりが、自分に合った形でスポーツへ関わり、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに関わることができる環境づくりを推進します。

### 2) スポーツのチカラを地域の賑わいやまちづくりに役立てる（スポーツの活用、他分野・他団体との連携）

スポーツで地域住民がつながることで、地域の課題解決につながり、心豊かに暮らせるまちを目指します。また、プロスポーツチームが身近にある強みを活かして、他分野・他団体と連携し、スポーツを通して市民が一体感や幸福感を感じ、夢や誇りを持てるような取組を行います。



## 3 目標達成のための成果指標

「スポーツ推進のめざす姿」を達成するため、次の2つの成果指標とその目標値を設定します。1つ目は、『日常的に（週1回以上）運動・スポーツをしている市民の割合』を54.5%から60.0%へ、2つ目は、『「する」「みる」「ささえる」のいずれかでスポーツに関わった市民の割合』を85.0%とします。

成 果 指 標	基準値	目標値
	2023年	2029年
日常的に（週1回以上）運動・スポーツをしている市民の割合	54.5% <sup>注1)</sup>	60.0%
「する」「みる」「ささえる」のいずれかでスポーツに関わった市民の割合	— <sup>注2)</sup>	85.0%

注1) 令和6（2024）年実施「佐賀市民意向調査」

54.5%＝「行っている（32.8%）」＋「ときどき行っている（21.7%）」

その他の選択肢は、「あまり行っていない（21.9%）」、「全く行っていない（23.3%）」、「無回答（0.3%）」。

注2) 令和7（2025）年「佐賀市民意向調査」から、新たな項目として追加調査する。

## 4 スポーツ推進の基本方針と施策

成果指標目標値達成に向けて、「する」「みる」「ささえる」による3つの基本方針と、「推進」「活用」「他分野・他団体との連携」からなる3つの基本施策を定め、これら9つの視点からスポーツ推進に取り組みます。

### (1)「する」スポーツの推進

市民がスポーツを楽しみ、健康的な生活を送る環境づくりを目指します。子ども、女性、高齢者、障がい者それぞれに合った「する」スポーツの機会を提供し、地域や企業をはじめ、他分野・他団体と連携してスポーツ活動を推進します。さらに、競技スポーツの推進にも取り組み、スポーツ実施率の向上を目指すと同時に、スポーツを活用した地域の振興も図ります。また、効果的な情報発信を通じ、スポーツ体験や施設の利用情報を広め、市民が気軽に「する」スポーツに参加できる環境を整えます。

### (2)「みる」スポーツの推進

魅力あるスポーツ大会やイベントの開催を通じて、市民が「みる」スポーツを楽しむ機会を増やし、地域の振興を図ることを目指します。また、スポーツを観戦しやすい環境づくりに取り組みます。さらに、SNSなどを活用した効果的な情報発信により、観戦機会を広げ、プロスポーツチームや他分野・他団体との連携を強化することで、交流人口の拡大とまちの賑わいを促進し、地域や経済の振興を図ります。

### (3)「ささえる」スポーツの推進

地域のスポーツ活動を支える人材の育成と、スポーツ大会等の開催を含めた支援体制の充実を目指します。スポーツ指導者やスポーツボランティア<sup>注3)</sup>の発掘・育成、登録推進を行い、資格取得や啓発活動を通じて資質向上を図ります。また、プロスポーツチームの知識や技術を活用して地域の指導力を高めるとともに、効果的な情報発信を行い、ボランティア活動の重要性を広めます。さらに、企業や他分野・他団体との連携を強化し、地域の「ささえる」スポーツ環境の整備を促進します。

注3) スポーツボランティアとは、地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、日常的に支えたり、大会で会場準備や参加者受付、受付補助など大会の運営を支える人です。

## 5 スポーツ推進施策の体系図

基本方針	基本施策	取組の方向性	具体的取組
「する」スポーツの推進	推 進	多様な形の「する」スポーツの推進	①子どものスポーツ推進 ②女性や働く世代・子育て世代のスポーツ推進 ③高齢者のスポーツ推進 ④障がい者のスポーツ推進 ⑤地域のスポーツ活動の推進 ⑥全国大会等出場への支援 ⑦競技スポーツの人口拡大 ⑧(公財)佐賀市スポーツ協会との連携
		利用者のニーズに対応できるような環境整備	⑨多様な「する」スポーツの環境整備 ⑩安全・安心・快適に利用できる施設の整備 ⑪学校体育施設の有効活用 ⑫指定管理者による管理・運営の充実
		レガシーの活用	⑬SAGA2024国スポのレガシー活用による地域振興 ⑭SAGA2024全障スポのレガシー活用によるパラスポーツの魅力発信
		「する」スポーツの情報発信	⑮「する」スポーツの情報発信の強化
	活 用	「する」スポーツによる地域振興	⑯「する」スポーツイベントの開催 ⑰アーバンスポーツを活用したまちの賑わいづくり
	他分野・他団体との連携	相乗効果による「する」スポーツの推進	⑱プロスポーツチームと連携した「する」スポーツの推進 ⑲他分野との連携を通じた「する」スポーツの推進
「みる」スポーツの推進	推 進	「みる」スポーツの機会創出	①スポーツ大会やイベントの開催
		観戦者のニーズに対応できるような環境整備	②スポーツ観戦しやすい環境の整備
		「みる」スポーツの情報発信	③「みる」スポーツの情報発信の強化
	活 用	「みる」スポーツによる地域振興	④スポーツ大会・合宿の積極的誘致 ⑤プロスポーツチームやスポーツ大会・イベントを活用したまちの賑わいづくり
他分野・他団体との連携	相乗効果による「みる」スポーツの推進	⑥プロスポーツチームと連携した「みる」スポーツの推進 ⑦他分野との連携を通じた「みる」スポーツの推進	
「ささえる」スポーツの推進	推 進	スポーツを「ささえる」人材の確保	①地域スポーツに携わる人材の育成 ②スポーツボランティアの養成 ③スポーツボランティアの登録推進 ④少年スポーツ指導者の資格取得への支援 ⑤少年スポーツ指導者の資質向上及び保護者への啓発 ⑥プロスポーツに関わる指導者等の持つ知識や技術の活用
		「ささえる」スポーツの情報発信	⑦「ささえる」スポーツの情報発信の強化
	活 用	「ささえる」スポーツによる地域振興	⑧大会(パラスポーツを含む)の開催支援
	他分野・他団体との連携	相乗効果による「ささえる」スポーツの推進	⑨プロスポーツチームと連携した「ささえる」スポーツの推進 ⑩他分野との連携を通じた「ささえる」スポーツの推進 ⑪部活動の地域展開の受け皿となるクラブとの連携

# 第3章 スポーツ推進施策の内容

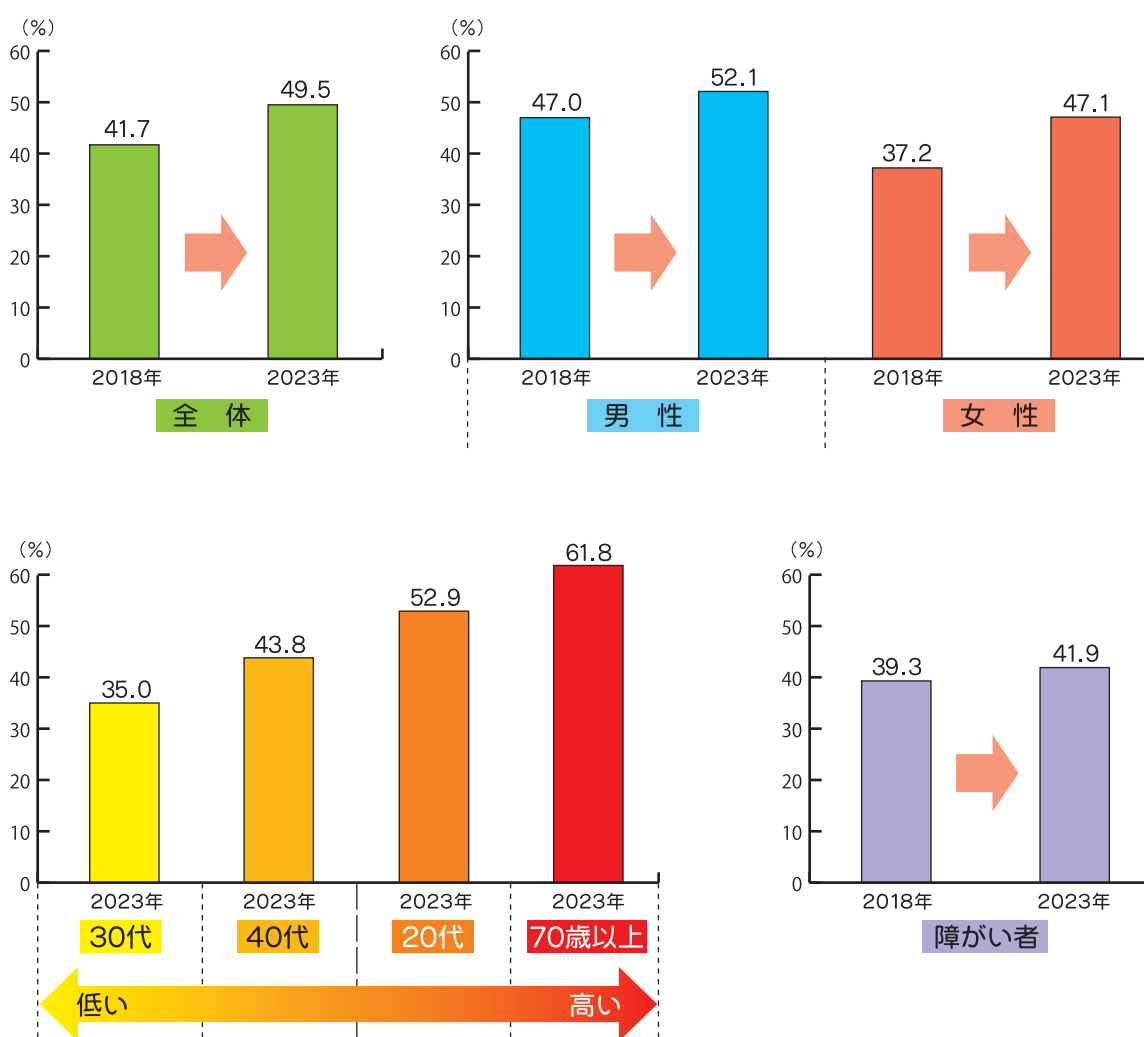
## 1 「する」スポーツの推進

### (1) 多様な形の「する」スポーツの推進

#### 現状と課題

日常的に（週1日以上）運動やスポーツを行っている人の割合は、5年間で大きく上昇したものの、目標（60%）との乖離が見られます。

日常的に（週1日以上）運動やスポーツを行っている人の割合



●運動・スポーツしない理由 「仕事や家事が忙しいから」約5割

#### 目 標

年代・障害の有無などに関わらず、市民がスポーツに親しみ、健康的な生活を送ることができる環境を整え、スポーツ実施率の向上を目指します。

## 具体的取組

### ① 子どものスポーツ推進

子どもがスポーツに対する苦手意識を持たず、大人になってもスポーツを続けていけるように、幼少期から体を動かす体験等の機会を設けるなど、子どものスポーツ実施を推進します。

### ② 女性や働く世代・子育て世代のスポーツ推進

スポーツ実施率の低い層に対して、課題と対策を明確にし、企業と連携した事業の展開や、ニーズに対応した参加しやすい教室等を実施するなど、スポーツ実施率の向上を図ります。



### ③ 高齢者のスポーツ推進

健康・体力の保持の観点から、ニュースポーツなど、体力の低下に配慮したスポーツを継続できる事業を実施します。

そのため、各地域において徒歩圏内でのスポーツレクリエーション活動を行い、在宅でもできるスポーツについても、普及啓発していきます。

### ④ 障がい者のスポーツ推進

障がい者が地域の身近な場所でスポーツが実施できるよう環境を整備し、スポーツをするきっかけづくりに取り組みます。また、障がいの有無にかかわらず、一緒に参加できるスポーツ行事を実施します。



## ⑤ 地域のスポーツ活動の推進

スポーツを通じた地域住民の交流を促します。また、外国人留学生や外国人労働者も、地域でスポーツを楽しめる環境作りを進めます。これらのため、スポーツ推進委員協議会をはじめ、校区体育（スポーツ）協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブやまちづくり協議会が連携し、それぞれが実施するイベント等の情報を共有していきます。

## ⑥ 全国大会等出場への支援

社会体育で活動している小中学生の九州・全国大会等への出場に対し、支援を行います。

## ⑦ 競技スポーツの人口拡大

少年期において、様々なスポーツに触れる機会を創出し、スポーツ実施率の向上を図ります。そのために県や関係機関と連携し、育成のための支援体制を整備します。

## ⑧（公財）佐賀市スポーツ協会との連携

本市の競技団体を統括している（公財）佐賀市スポーツ協会との連携を強化することで、競技スポーツを推進します。

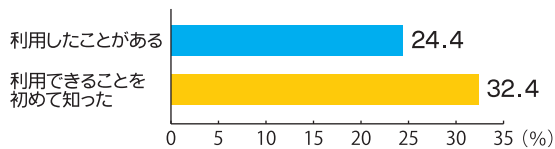


## (2) 利用者のニーズに対応できるような環境整備

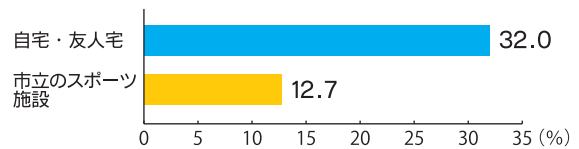
### 現状と課題

学校を含む市の施設の利用率が低くなっています。そのため、学校施設開放の周知や老朽化した施設の改修など、利用者のニーズにあった取組が求められています。

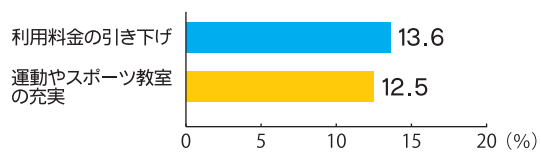
#### 学校施設開放の利用率



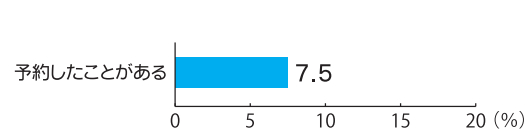
#### 運動・スポーツ実施場所



#### 市立スポーツ施設への要望



#### 市立スポーツ施設予約システム利用率



### 目標

利用者のニーズに応じたスポーツ環境の整備を推進し、安心・安全で快適に利用できる施設を提供します。具体的には、老朽化した施設の改修やユニバーサルデザインの導入を検討し、学校体育施設を市民がより活用できるような運営方法を検討します。また、行政と民間が協力して管理・運営を行うことで、サービスの向上と経営の安定を目指します。

### 具体的取組

#### ⑨ 多様な「する」スポーツの環境整備

今後需要が見込まれる利用者のニーズに対応できるよう環境の整備を検討します。

#### ⑩ 安心・安全・快適に利用できる施設の整備

老朽化に対応した改修や、ユニバーサルデザインの導入などの整備、空調設備の設置検討を行い、誰もが安心・安全・快適に利用できる施設の整備を検討します。



## ⑪ 学校体育施設の有効活用

市民にとって身近なスポーツ活動の場として、「学校体育施設開放運営委員会」と連携してより多くの市民が利用できるような運営方法の検討や見直しを行います。

## ⑫ 指定管理者による管理・運営の推進

行政と民間が協力し、きめ細やかなサービスの提供と経営の安定化を図ります。

# (3) レガシーの活用

## 現状と課題

令和6（2024）年にSAGA2024国スポ・全障スポが開催され、市民のスポーツに対する関心がより一層高まりました。

大会会場となった体育施設の利活用と本大会がもたらしたスポーツへの関心の高まりを持続・発展させる取組が求められています。

## 目 標

SAGA2024国スポ・全障スポを契機に整備されたスポーツ施設を活用して地域振興を図るとともに、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しむことができるパラスポーツ<sup>注4)</sup>の普及を促進します。

注4) パラスポーツとは、障がいのある人もない人も高齢者も、みんな楽しめる「もうひとつのスポーツ」です（ニュースポーツを含む）。

## 具体的取組

### ⑬ SAGA2024国スポのレガシー活用による地域振興

SAGA2024国スポ開催に伴い整備した、富士しゃくなげ湖水上競技場をレガシーとして、合宿誘致や新たな利活用を図ることにより、地域振興につなげます。

また、地域イベントにおいて、デモンストレーションスポーツで実施されたニュースポーツ体験の拡充を図り、地域交流の促進を図ります。



## 14 SAGA 2024全障スポのレガシー活用によるパラスポーツの魅力発信

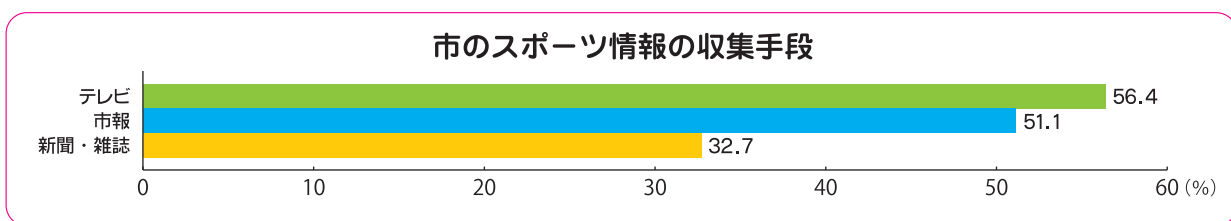
SAGA 2024全障スポ開催で改めて注目されたパラスポーツの魅力を継続的に情報発信していきます。



### (4)「する」スポーツの情報発信

#### 現状と課題

市民の情報入手先として、テレビや市報が5割を超えているが、特に若い世代に対してはSNSを活用した情報発信の強化が必要となっています。



#### 目 標

「する」スポーツの機会充実につながる効果的な情報発信の強化を目指します。

#### 具体的取組

##### 15 「する」スポーツの情報発信の強化

スポーツ体験会・教室やスポーツ施設以外にも運動できる場所の情報提供等を行い、気軽にスポーツを実施する機運を高めます。



## (5)「する」スポーツによる地域振興

### 現状と課題

スポーツのチカラ(価値)を活用したまちづくりが注目されています。スポーツをする人を増やし、まちを元気にする取組が求められています。

### 目 標

スポーツイベントやアーバンスポーツ等を活用し、交流人口の拡大による地域振興やまちの賑わいづくりを目指します。

### 具体的取組

#### ⑩「する」スポーツイベントの開催

さが桜マラソンや佐賀インターナショナルバルーンフェスタなどを開催することで、多くの人を呼び込み、スポーツによる交流人口の拡大を図ります。併せて、スポーツへの関心を高めることで、スポーツ実施者を増やすことにつなげます。

#### ⑪ アーバンスポーツを活用したまちの賑わいづくり

子どもや若者に人気があるスケートボードなどのアーバンスポーツを活用し、まちの賑わいづくりにつなげます。併せて、子どもや若者のスポーツ実施率の向上を図ります。



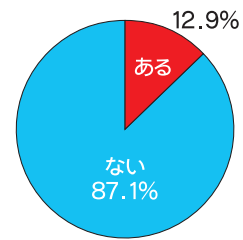
【佐賀新聞社提供】

## (6) 相乗効果による「する」スポーツの推進

### 現状と課題

スポーツは、健康、教育、まちの賑わいなど、多分野にポジティブな影響をもたらします。そうした他の分野と連携し、スポーツを推進するという視点も重要です。

トップレベルのチームや選手との交流



### 目 標

プロスポーツチームや他分野・他団体と連携し、市民がスポーツを楽しむきっかけを提供することで、スポーツ実施率の向上を目指します。

### 具体的取組

#### ⑱ プロスポーツチームと連携した「する」スポーツの推進

市民がプロスポーツ選手等と触れ合い、体を動かすことの楽しさ等を実感する取組を行うことで、スポーツ実施者を増やすことにつなげます。

#### ⑲ 他分野との連携を通じた「する」スポーツの推進

他分野と連携することで、相乗効果による、「する」スポーツの推進を図ります。

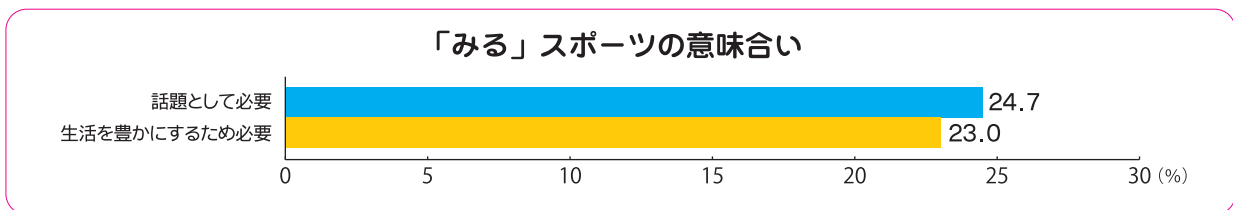


## 2 「みる」スポーツの推進

### (1) 「みる」スポーツの機会創出

#### 現状と課題

スポーツを「みる」ことでコミュニケーションを促進し、生活の質を向上させる役割を果たすほか、スポーツを「みる」ことで、スポーツを「する」きっかけとなることから、「みる」スポーツの機会の創出が求められます。



#### 目 標

「みる」スポーツの機会創出につながる魅力ある大会やイベントの開催を目指します。

#### 具体的取組

##### ① スポーツ大会やイベントの開催

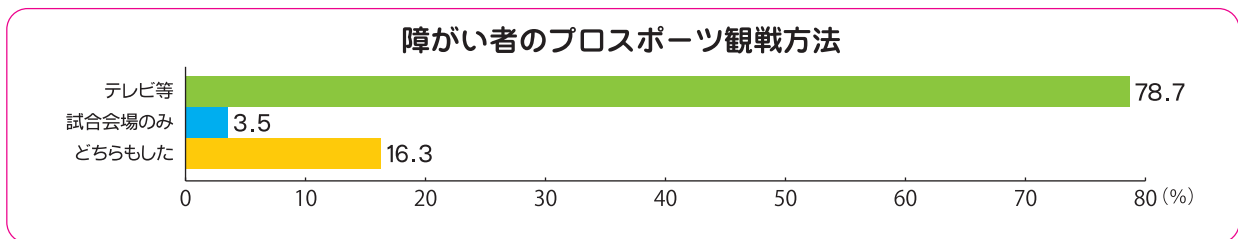
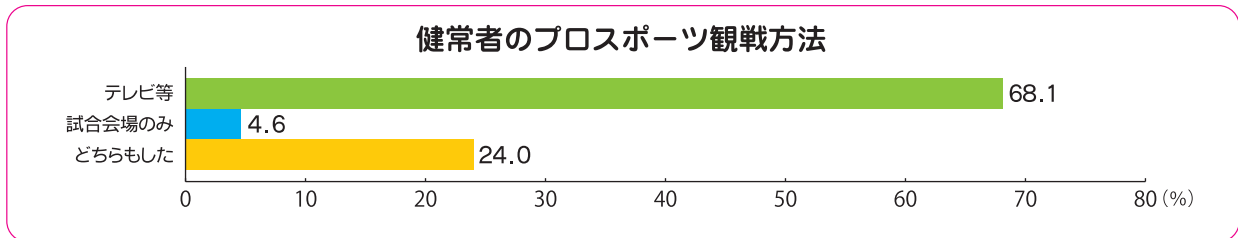
スポーツ大会やスポーツイベントを開催することにより、スポーツをみる機会を創出します。



## (2) 観戦者のニーズに対応できるような環境整備

### 現状と課題

市民の多くがテレビ等を通して、スポーツ観戦を楽しんでいます。グラウンドや体育館などでの観戦者を増やし、臨場感を味わったり、観戦者間の交流などスポーツの魅力伝えることも必要です。



### 目標

誰もがスポーツを観戦したくなる環境の構築を目指します。

### 具体的取組

#### ② スポーツ観戦しやすい環境の整備

障がいの有無にかかわらず、誰もがスポーツ観戦しやすい環境づくりを行うことで、みるスポーツの推進を図ります。

## (3) 「みる」スポーツの情報発信

### 現状と課題

県内でのプロスポーツチームの活躍やSAGA2024国スポ・全障スポ大会の開催によって、多種多様なスポーツに対し、市民の関心は高まっています。

このため、市内で開催される「みる」スポーツに関わる情報を集約し、年代や障がいの有無に応じた、全ての市民に素早く効果的に届ける手段の工夫が必要となっています。

### 目標

「みる」スポーツの機会充実につながる効果的な情報発信の強化を目指します。

## 具体的取組

### ③「みる」スポーツの情報発信の強化

市民がスポーツを「みる」機会を増やすため、DX化やSNSの活用等、市内で開催されるスポーツ大会や市民が参加できるスポーツ大会等の情報提供を進め、スポーツ観戦の機会を創出します。

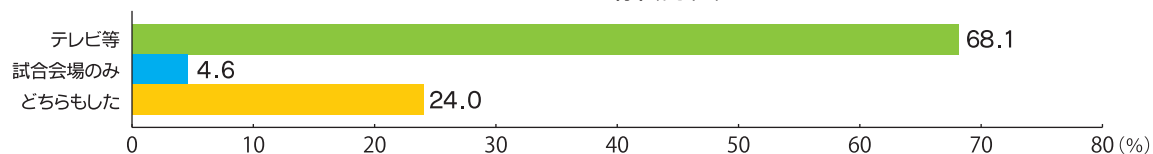


## (4)「みる」スポーツによる地域振興

### 現状と課題

スポーツのチカラ(価値)を活用したまちづくりが注目されています。スポーツをみる人を増やし、まちを元気にする取組が求められています。

#### プロスポーツの観戦方法



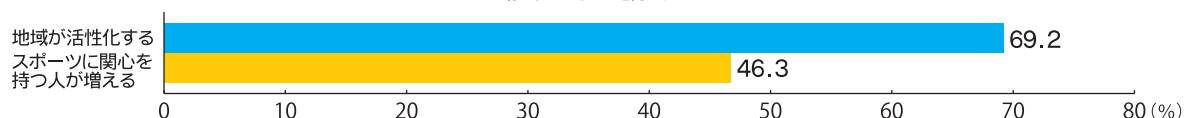
#### トップレベルのチームや選手との交流



#### トップチーム等の合宿・キャンプ誘致の是非



#### キャンプを積極的に誘致すべき理由



## 目 標

スポーツ大会やイベント、合宿の誘致やプロスポーツチームと連携することで、スポーツへの関心を喚起し、交流人口の拡大を図るなど、まちの賑わいづくりへの活用を目指します。

## 具体的取組

### ④ スポーツ大会・合宿の積極的誘致

国内外からのスポーツ大会・合宿等を誘致し、スポーツを「みる」機会を創出し、多くの人を呼び込み、交流人口の拡大を図ります。

### ⑤ プロスポーツチームやスポーツ大会・イベントを活用したまちの賑わいづくり

プロスポーツチームとの連携を強化する等、スポーツが持つ経済的価値や社会的価値を地域振興につなげる取組を行います。



## (5) 相乗効果による「みる」スポーツの推進

### 現状と課題

スポーツは、健康、教育、まちの賑わいなど、多分野にポジティブな影響をもたらします。そうした他の分野と連携し、スポーツを推進するという視点も重要です。

### 目 標

プロスポーツチームや他分野・他団体と連携し、「みる」スポーツの魅力を広め、市民のスポーツへの関心を高めることを目指します。

## 具体的取組

### ⑥ プロスポーツチームと連携した「みる」スポーツの推進

影響力の大きいプロスポーツチームと連携し、効果的な情報発信を行う等、市民にスポーツの魅力を伝える取組を行います。

## ⑦ 他分野との連携を通じた「みる」スポーツの推進

他分野と連携することで、相乗効果による、「みる」スポーツの推進を図ります。



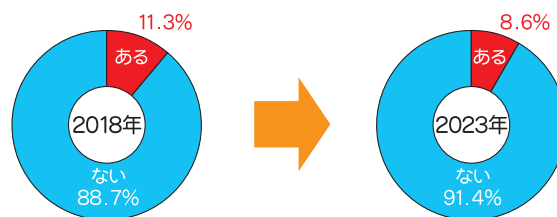
## ③ 「ささえる」スポーツの推進

### (1) スポーツを「ささえる」人材の確保

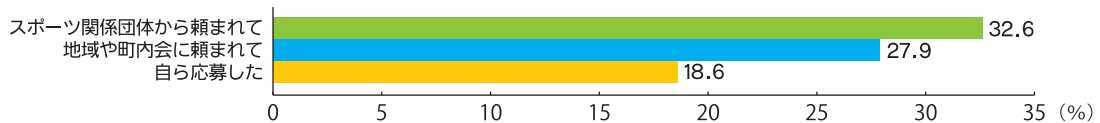
#### 現状と課題

スポーツを「ささえる」活動の1つに「スポーツボランティア」があります。スポーツボランティアは、スポーツの円滑な運営に欠かせない存在ですが、登録者数は減少傾向にあります。また、参加者の中でも自発的に参加する人は少数です。このため、「ささえる」人材を増やす取組が必要です。

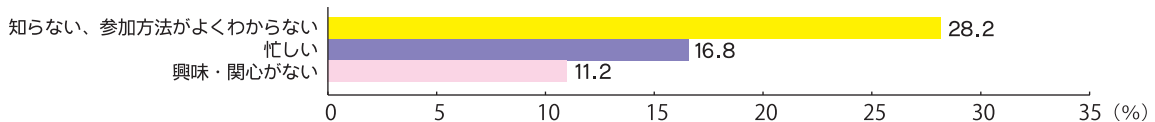
#### スポーツボランティアへの参加の有無



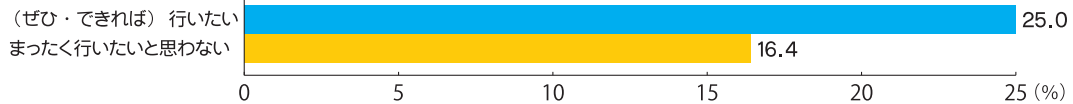
#### スポーツボランティアへの参加の理由 (参加した理由)



#### (参加しなかった理由)



### 今後のスポーツボランティアへの参加意識



## 目 標

地域スポーツを支える人材の育成と継続につながる支援体制の充実を目指します。具体的には、地域スポーツの指導者の養成・育成を進め、スポーツボランティアを養成し、登録を推進します。また、少年スポーツの指導者資格取得を支援し、指導者や保護者への啓発活動を通じて、子どものスポーツの発展を促進します。さらに、プロスポーツの知識や技術を活用し、地域スポーツ・少年スポーツの指導者の指導力向上を目指します。

## 具体的取組

### ① 地域スポーツに携わる人材の育成

市民にとって、身近な場所（地域）での運動・スポーツ活動を支援するため、地域における指導者や各地域においてスポーツイベント・教室の企画・運営を行う人材の発掘と育成に努めます。

### ② スポーツボランティアの養成

より多くのボランティアを養成するため、大学・企業・NPO等と連携し、スポーツボランティアとして「ささえる」スポーツへの関わりを推進し、定着させ、その活動を支援します。

### ③ スポーツボランティアの登録推進

市民にスポーツボランティア登録の推進を行い、「ささえる」スポーツと「する」スポーツ両者の参加促進が相乗的に得られる好循環を創出します。

### ④ 少年スポーツ指導者の資格取得への支援

「少年スポーツのあり方についての取組方針」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた適切な指導が行われるよう、指導者に対し、指導者資格取得への支援等を行います。

### ⑤ 少年スポーツ指導者の資質向上及び保護者への啓発

少年期のスポーツ実施では、生涯にわたってスポーツに親しむことができる基礎を培うことが必要であり、子どものスポーツ実施に大きな影響を持つ指導者と保護者に対して講習会等を実施します。

## ⑥ プロスポーツに関わる指導者等の持つ知識や技術の活用

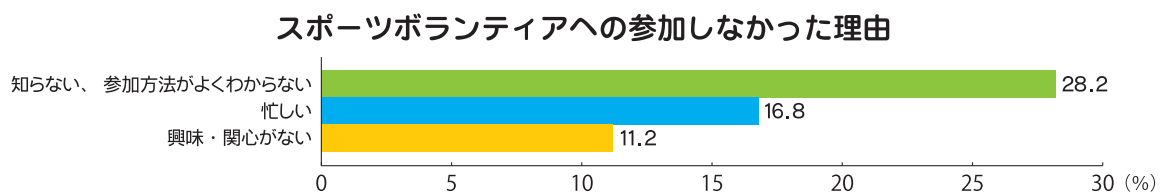
プロスポーツチームの指導者等がもつ知識や技術を活用し、市内のスポーツ指導者の指導力向上につなげるための機会を創出します。



## (2) 「ささえる」スポーツの情報発信

### 現状と課題

「スポーツボランティア」を知らない、関心がない層に対する働きかけが必要です。



### 目 標

「ささえる」スポーツの機会充実につながる効果的な情報発信の強化を目指します。

### 具体的取組

## ⑦ 「ささえる」スポーツの情報発信の強化

スポーツボランティア等の情報や地域のスポーツクラブ等の情報をホームページ等に掲載し、積極的な情報発信を行います。

### (3) 「ささえる」スポーツによる地域振興

#### 現状と課題

スポーツのチカラ（価値）を活用したまちづくりが注目されています。スポーツをささえる人を増やし、まちを元気にする取組が求められています。

#### 目 標

本市で開催する各種競技大会等を支援し、各種大会等の開催を促進することで交流人口の拡大を図り、地域振興やまちの賑わいづくりを目指します。

#### 具体的取組

##### ⑧ 大会（パラスポーツも含む）の開催支援

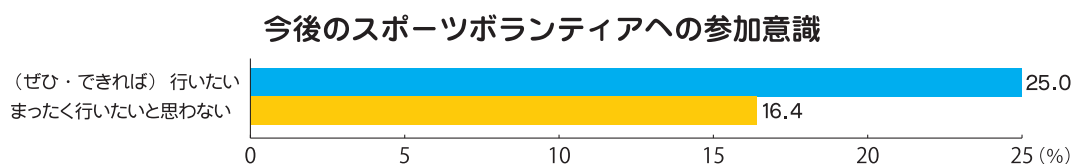
各競技団体や関係機関、組織等が本市で開催する競技大会を支援するとともに、運営をささえるボランティアの確保を支援します。



### (4) 相乗効果による「ささえる」スポーツの推進

#### 現状と課題

スポーツは、健康、教育、まちの賑わいなど、多分野にポジティブな影響をもたらします。そうした他の分野と連携し、スポーツを推進するという視点も重要です。



#### 目 標

プロスポーツチームの発信力等を活用し、効果的な情報発信を行うとともに、他分野や企業のCSR活動と連携し、スポーツボランティアへ関わる意識を高めることにつなげます。また、部活動の地域展開に伴い、受け皿となるクラブや団体との協力を促進し、円滑な展開を支援することで、地域に根ざしたスポーツ環境の整備を目指します。

## 具体的取組

### ⑨ プロスポーツチームと連携した「ささえる」スポーツの推進

影響力の大きいプロスポーツチームと連携し、効果的な情報発信を行う等、スポーツボランティア等の「ささえる」スポーツの魅力を伝える取組を行います。

### ⑩ 他分野との連携を通じた「ささえる」スポーツの推進

他分野と連携することで、相乗効果による、「ささえる」スポーツの推進を図ります。

### ⑪ 部活動の地域展開の受け皿となるクラブとの連携

部活動の地域展開に伴い受け皿となる可能性がある団体との連携を図り、受け皿づくりを推進します。

